



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / 米、麦、大豆、露地野菜、ハトムギ

井上 喜和さん (27歳) (営農地 / 筑前町中牟田)

これからの水田を考える

《就農のきっかけ》

自然に就農

農業高校を卒業後、県農業大学校に進学し、卒業後就農しました。「就農のきっかけはなんですか？」と聞くと困り顔の井上さん。農業をするべく育てられたのか、育ったのかは分かりませんが、「就農することは当然だ」という思いがあり、自然に就農したそうです。

そう言いながらも、「農家の長男としての責任感や使命感もあったし、やはり、父が私の就農のための基盤づくりをしっかりとってくれていたことが一番大きかったです。」と話す井上さんには、後継者としての決意が感じられます。

《これまでの過程》

農業は宇宙

経営内容は米麦大豆が中心でしたが、井上さんの就農を機に、米麦大豆の規模を拡大して野菜の品目を増やし、現在はホウレンソウの露地栽培も行っています。

以前から家の仕事を手伝っていたのですが、就農してからは売上やコストを意識したり、一年を通しての作業スケジュールを立てたり、天気を見据えての作業、品目毎の栽培方法など、それまでやっていた「手伝い」と「仕事」の違いを強く感じたそうです。

また、高校、大学共に農業専門だったので、基礎的な知識はそれなりにあったにもかかわらず、「実際に作物を栽培してみると、まるで宇宙みたいに奥が深い！」と驚きました。例えば、苗の植え付けの深さ一つとっても、浅かったり深かったり、その時の気候を考えると無限の組み合わせがあり、思っていた結果が得られないことが多々ありました。「逆に、そういう所が農業の楽しさの一つだと思います。」と井上さんは眼を輝かせ、楽しそうに話してくれました。

現在、就農して7年目。まだまだ父や祖父に怒られることも多いですが、地域の農業の先輩や仲間に栽培技術や経営のやり方を教わりながら日々勉強、研究を続けています。



プロフィール

- 家族構成 / 祖父、父、母、本人、兄弟
- 営農年数 / 約7年
- 耕作(経営)面積 / 15.2ha
- 販路 / 直売、市場、JA

《これからの展望》

品質の高い米作りを目指して

井上さんの家では栽培した米は全量を直接販売しており、米作りは経営の中でとても重要な位置づけになっています。井上さんは「これからも安全でおいしいお米を追及していきたいし、お客様に安定的に供給できるよう、栽培技術を身に付けることが第一の目標です。」と言い切ります。

また、地域の課題として以前から「後継者不足」が叫ばれており、事実、井上さんの地域は、20代の後継者は井上さん一人だけで、高齢化もかなり進んでいます。「10年、20年先のことを考え、地域の担い手として農地を守り、今後は個人の経営だけを考えるのではなく、地域全体で地域農業の抱える課題を克服していきたい。」と思っているそうです。



Good 成功のためのポイント

自分のほ場だけでなく他人のほ場もよく観察し、その違いの原因を考えること、毎日の作業を記録しては結果を踏まえて次に生かすなど、「少しでも改善していく姿勢」が大事だと思います。